7 月報(2025 年) 萌 カトリック福山教会

福山教会活動テーマ：
「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808　福山市昭和町 7―26
☎【084】923-0614　FAX【084】923-0615
e-mail ：fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【バラが気付かせてくれたこと】

松坂 慈子

十五年前に亡くなった主人が三十代の頃ですから、四十年くらい前のことになります。主人の友達の奥様が庭にバラを育てて、毎年五月頃オープンガーデンを。

無二の親友でしたので、カメラ好きな主人は出掛けて行ってはバラを撮っていました。そのデーターを遺してくれていたので、それを使って日めくりを作り、偲ぶ会で皆さんにお渡しすることが出来ました。でもこの四、五年オープンガーデンをされている様子がないので、お元気なのかしらと心配していました。ところがこの度世界バラ会議のイベントのことが載った新聞記事の中に彼女の姿を見付けたのです。大喜びで電話を入れました。「お元気だったのね…バラ会のメンバーとして頑張っているのね」と言うと「よく見つけてくれたわね」と懐かしい声が。

主人が遺してくれた写真で作った日めくりの 1/3 は(31 日の内 9 日)は彼女のバラでしたので、バラ公園へ行ってみました。

そして次のような話を仲間の方達との会話の中で聞いたのです。「藤井さんがいらした頃は教会の玄関先にバラを置いてくださっていたのに無くなったので寂しいわね」と。

その足で教会の水やりに寄った私は祭壇の、説教台の下に飾ってある素晴らしいバラの花を見付けました。そして何と事務の方から次のような話が聞けたのです。「藤井さんが亡くなられた後、枯れかけていたバラの鉢を持って帰って家で育ててくださった方が生けてくださったんですよ」と。感動でした。藤井さんが亡くなられてもう四、五年経っていますから。

第二日曜日バラの会の集いがバラ公園であるとのことでしたので、日めくりを抱えてバラ公園へと参りました。教会に生けてあったバラの写真をお見せして、藤井さんのバラであることを、そのいきさつをお話しすると皆さんウルウルして喜んでくださいました。そして彼女が言ってくれました。「もう八十だし、バラ会のお手伝いもこれが最後かもと思っていたけど、元気をもらいました。まだまだ頑張ろうと思う」と。

藤井さんありがとう。藤井さんのバラを育ててくださった麻生さんありがとう。多くの方が元

気をいただきました。

お恥ずかしいことに、この度のことがあって何十年ぶりかにバラ公園へ行き、バラの美しさに多分初めて気付きました。神がこの花をこのように美しく造られたことに…。そして思いました。花でさえこのように装わせてくださった神は私たちのために…。

神に救って頂いたことを知った私たちはそのことに感謝し、その喜びを一人でも多くの人に分かち合わねばと。やなせたかしさんは「人生は喜ばせごっこ」と言われました。私達こそこの言葉を先頭に立って行える人にならねば…と。

【ブラザー阿部のみ言葉おすそわけ】～マタイ福音書９章～

『新しい葡萄酒は。新しい皮袋に入れるものだ。』今日はこの言葉に心が留まりました。

イエスが言う古い皮袋とは、旧約の律法のことのようです。そして新しい皮袋は、イエスが新しい掟を人々に告げる救いのメッセージのことです。

『目には目を』という古い皮袋から、『敵をも愛しなさい』という新しい皮袋に入れなさいということなのです。

イエスの救い、私たちにとっての希望がここにあります。ここで古い皮袋は、捨てなさいと言っているのではないことも考えてみましょう。

旧約の律法という大切な基礎の上にイエスの新しい掟があるのです。ここで、わたしたちの人間関係のことを考えてみました。

人それぞれ、いろいろな性格があり、長所、短所もある中で、お互いの意見の違いを超えて、共に歩んでいます。古い考えの人もいれば、新しい事に次々と挑戦していく人もあります。私たちが、その違いを越えて、相手を大切に共に歩むこと。それも、信仰という土台の元に歩むことを、神は望んでおられます。

兄弟のように共に住むのは、美しく、楽しいこと私たちの信仰の歩みは、お互いが同じ神の子としての兄弟の歩みです。お互いを大切に思うこと、自分中心ではなく。兄弟愛を持って仕え合うこと。今日の福音から、「隣人を自分のように愛しなさい」という大切な掟を考えてみました。

この言葉は、そのまま、戦争を起こしている人たちに向けられます。神さまからのメッセージを、素直な心で受け止めますように。

【南相馬便り㊽2025年7月】　　援助マリア修道会　南相馬修道院　北村令子

2016年7月12日に小高区は「特定帰還居住区域」に指定されました。帰宅困難区域の指定が解除されて、住民の帰還が進められていきました。しかし、「特定帰還居住区域」に指定されなかった、一部の区域、浪江に面した山間の部落は解除されないまま、今日に至っています。そのうち住民の1世帯が、この区域への帰還を求め、「特定帰還居住区域」への指定を国に申請し、国費で周辺の除染が行われることになりました。もう帰還をあきらめかけていた家族も、14年たった今日避難先での生活にストレスを感じ、山に囲まれて生活していた故郷への思いを募らせていました。周辺の大熊や双葉で「特定帰還居住区域」への指定のニュースを聞いて、思い切って南相馬市に相談したところ、1軒でも帰還の希望があるならと、市から国へ申請してくれることになったそうです。

福島民報　2025年

南相馬市に「特定帰還居住区域」
小高区金谷3.7ヘクタール範囲に
国に年度内計画申請へ

一度は諦めたようやく道筋

震災・原発事故へ14年

自宅周辺の除染実施の結果を手にする佐山さん

一番戻りたがっていた母親は2020年に他界し、息子さんがその思いを実現したいと今回の申請になったそうです。実際に実現するのは何年先になるのかわかりませんが、私は、この1世帯だけの思いをも大切にする南相馬市のはからいに感心しました。

少し気になることは、山は除染されていないので、ほかの地域より放射線量が高いということです。生活圏内は除染されたとしても、その周辺がどのくらい除染されるかによって、危険性があるのかどうか？そのことは役所もご本人も承知の上だと思うのですが、ちょっと気になります。

地元に負担かけないよう
首相、除染土処分で発言
衆院予算委　理解醸成努める考え示す

「まず、原発の恩恵が大きかった地域で」

除染土壌再利用で福島市長
首都圏での受け入れ急頭

前にも少し触れた除染土の問題ですが、中間貯蔵施設がある双葉町の町長の「除染土受け入れの国民の理解を得るために、まず地元福島県内で再利用に取り組むべきだ」との発言に対して福島市の市長は「まず、原発の恩恵が大きかった地域が真っ先にやるべきだ（筆者注：すなわち東京など首都圏）、要請があれば検討するが、福島県で率先して再利用をとの考えはない」と言っている。石破首相は、「どれだけ多くの国民の理解を得るかが極めて大事だ。<u>地元になるべく多くの負担をかけないようにと思っている</u>。町長の話もよく聞きながら国民全体の理解の醸成に努めていく。」と述べた。（福島民報 2025.3.1）

南相馬市は、除染土の再利用について、道路整備の底に使って、その上にきれいな土をかぶせて舗装する案が出されましたが、住民の反対で、却下されたと記憶しています。（私が南相馬に移住した当座、その話でもちきりでした。現在どうなっているのかわかりません。再利用反対のまま続いていると思います。）長い年月の間に、雨風、地震などで道路が壊れて、除染土の放射性物質が流出しないとも限らないわけですから、原発事故被災者の立場に立ったら、反対も無理はないと思います。東京電力の恩恵を受けた地域が負担するのが筋だと思います。これは私の個人的な意見です。

わたしの召命物語

英知大学神学部を卒業して、修道会から福山暁の星女子中学・高等学校の宗教科の教師として赴任するよう要請され、「私は学校の先生になるために大学に行ったのではありません。その約束でした。」と断ったのですが、「シスター〇〇に校長になってもらうための養成期間の埋め合わせをしてほしい」とのことで、期限付きならいいか？？と、神様のみ旨なら、どこにでも派遣してくださいという従順の誓願の精神とは程遠い心で承諾しました。学校に初出勤の日、校長から高校 1 年生の学年主任として勤めるように、とのこと。「え～ぇ、教師なんてやったことのないのに、学年主任？！先生って授業のほかに何をやっているの？」学年団の先生方に「ご迷惑をおかけしますが、よろしくご指導ください。私は何をすればいいのでしょうか？」と。ベテランの先生を学年団に配置してくださっていましたが、先生方も新米だが一応学年主任の私に伺いを立てられます。「シスター、これこれはどういたしましょうか？」と言われる度に、私の方から、「どういたしましょうか？」と聞き返して、「こうこうしてはいかがでしょうか？」、「そうしましょう！！」といった会話で明け暮れていました。

それから毎日が修羅場です。宗教と倫理社会の授業の準備をしなければ！180 名の生徒の名前を覚えなくっちゃ！！2 学年の宗教ですから約 360 人の名前を覚えないといけません。

新米教師に神様は容赦なく試練を与えてくださいます。新学期が始まって 1 か月もたたない 5 月初めに、大事件が起こったのです。学年主任だから、降りかかってくるものから逃げることもできず、受けて立つしかなく、思いつく限りの手立てを講じて、後は神様の助けがあるはず！と開き直って祈りました。ことが収まったとき、ベテランの先生から「シスターはすごい！！あんなに落ち着いて指示が出せるなんて！！」とお褒めの言葉をいただきましたが、私としては落ち着いてなんかいなかったのです。無我夢中で 1 年が過ぎました。あ～、何とか無事に？無事でもなかったのですが、校長先生からお咎めもなく、1 年が過ぎて、受け持った生徒たちは進級していきました。学年の最後の日、生徒たちから「1 年間お世話になりました。」との感謝の言葉をもらった時、「あぁ、教師も悪くないな！！」と思いました。高校 2 年生になった生徒たちが、少しお姉さんらくなって挨拶してくれると、教師の喜びというものを少し味わえるようになりました。そして、この生徒たち一人一人を神様の前に差し出して祈りました。神様がこの一人ひとりを守り、その進むべき道を導いてくださるようお願いして、一日を終える。そういう毎日が、ず～～っと続くことになります。

教師だけにはなりたくないと思っていた私ですが。

（パステル画、水芭蕉.）

【帰天のお知らせ】

パウロ三木　川嵜 順一郎様（82 歳）
トマス　　中﨑　荒丸様　（91 歳）
謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【７月・８月の行事予定】

７　月		８　月	
3(木)	聖トマス使徒	5(火)	平和行事
20(日)	街頭募金　　日曜学校終業式	6 (水)	主の変容
22(火)	聖マグダラのマリア	8(金)	福山空襲追悼ミサ
25(金)	聖ヤコブ使徒	10(日) ～ 12(火)	練成会
26(土)	聖ヨアキムと聖アンナ		
29(火)	聖マルタ 聖マリア 聖ラザロ	15(金)	聖母の被昇天

【編集後記】　＊嬉しかったことの分かち合い２つ

（1）葬儀当番で「火葬の時のいのり」を担当した　祈りを終え　故人との最後のお別れの後「お父さんが好きだった歌を歌って葬送ります！」と親族が歌を歌った　扉が締り遺体が荼毘に伏される直前まで歌声は響いた　「復活の信仰」きっとお父さんはこの歌を通してみんなの心にいつまでも生き続けるんだろうなと思った
（2）ミラクル　あり得ない事が起きた　葬儀当番が続き遠ざかっていたグランドゴルフに久しぶりに出掛けた　月例の記録会で　わずか数か月の新米が 20 年選手の先輩諸氏を抑えて 4 つのホールインワンを出して優勝してしまった　神懸かりとしか言えない　めったに出た事がない最初のゲームの１コースでホールインワン　不思議は続いた
今まで経験した事のない４つのホールインワン　調子はよく崩れる事はなかった

　どうして入ったのか？　まるで天使が飛んで来てこっそり入れてくれかのように、もしかして亡くなった二人が背中を押してくれたのかもしれない　きっとそうだ　そう信じておこう　　(N.T.)